

以下のスライドの著作権等について

- 以下のスライドは2013年3月16日に早稲田大学8号館303/304/305会議室で開催される日本英語教育学会第43回年次研究集会での発表に使用しました。
- スライドの内容は変更した部分があります。
- すべての無断複製を禁止します。
- 以下のスライドの著作権・使用許諾条件・掲示責任者・連絡先などについては<http://www.f.waseda.jp/harada/copyright-j.html>をご覧ください。

2013年3月16日(土曜日) 早稲田大学8号館303/304/305会議室

日本英語教育学会第43回年次研究集会

【会長講演】

グローバル人材育成と

International Baccalaureate:

一言語情報から見た Theory of knowledge の意義

原田 康也

harada@waseda.jp

早稲田大学 法学学術院 教授(英語・言語情報副専攻担当)
日本英語教育学会 会長

現代日本の大学英語教育における課題

- 学生の英語力
 - 学習到達度の多様性
 - 語彙不足・読解力不足・表現訓練不足
- 学生の一般的学習能力
 - 調べとまとめと発表・批判的受容・創造的思考・知識の統合
 - レポート・文章のまとめ方(引用・出典など含め)
 - 口頭発表・プレゼンテーション(引用・出典など含め)
 - コンピュータ・ネットワーク・検索システム・図書館の利用
- 学生のコミュニケーション力
 - 対人関係・無発言行動*
 - 論理的表現力(文書・口頭での説得力)
 - 即時的応答力(時間に制約のある課題)

*岡本能理子,「第四章 ことばの力を育む」, 小宮山博仁・立田慶裕編,『人生を変える生涯学習の力』, p. 102, 評論社, 2004年5月15日.

本日の発表の背景(論理的構成)

- 本来の専攻分野に関する研究
 - 認知科学・計算言語学
 - 文法理論・統語論・形式意味論・形式語用論
 - 言語資源の構築と活用・知的情報処理の言語学習への応用
 - 学習・認知発達研究
- 職務上の研究開発
 - 英語教育
 - 英語教育・英語学習の理論・方法・実践研究
 - 外国語学習環境整備・情報教育との統合化
 - 情報教育
 - 情報教育環境整備・情報倫理教育方法
 - 情報基礎演習カリキュラム整備・授業方法開発
 - 一般教育
 - 情報教育環境の活用
 - 言語学の学習における検索リテラシ
 - 文法理論の学習における論理プログラミング環境の活用
 - 情報基礎演習的アプローチ

本日の話題

- 英語教育の目的
 - 『教養』か『実用』かの不毛な対立を乗り越えて
 - 一般教育としての英語教育 cf. 国際基督教大学
- 一般教育(教養教育)としての大学英語教育
 - 言語教育と情報教育の統合
 - 言語教育と一般教育の統合
- グローバル人材の育成
 - いつでも・どこでも・だれとでも・仕事ができる
 - International Baccalaureate
 - Theory of Knowledge

現代日本の大学英語教育における課題

- **学生の英語力**
 - 学習到達度の多様性
 - 語彙不足・読解力不足・表現訓練不足
- **学生の一般的学習能力**
 - 調べとまとめと発表・批判的受容・創造的思考・知識の統合
 - レポート・文章のまとめ方(引用・出典など含め)
 - 口頭発表・プレゼンテーション(引用・出典など含め)
 - コンピュータ・ネットワーク・検索システム・図書館の利用
- **学生のコミュニケーション力**
 - 対人関係・無発言行動*
 - 論理的表現力(文書・口頭での説得力)
 - 即時的応答力(時間に制約のある課題)

*岡本能理子,「第四章 ことばの力を育む」, 小宮山博仁・立田慶裕編,『人生を変える生涯学習の力』, p. 102, 評論社, 2004年5月15日.

これからの「英語教育」が目指すべきもの

- 「英語の運用能力」
 - 4技能＋コミュニケーション能力の涵養
 - 「4技能の訓練」を超える必要
- 「英語の科学的な理解」
 - 言語・コミュニケーションに対するメタ認知
 - 英語学習に対する科学的なアプローチ
- 「国際情報社会に参画する態度」
 - 国際社会の理解
 - 自らの言語・文化の相対化

原田康也, 「『英語教育の情報化』の本質と目的: 『情報科』から見た『外国語科』の『ねらい』」, 平成14年度情報処理教育研究集会講演論文集, pp. 601-604, 文科省・東京大学, 2002年10月25日.

『英語が使える日本人』の育成のための 戦略構想(文部科学省2002年7月発表)・ 同行動計画(文部科学省2003年3月発表)

• 戦略構想の達成目標

- 国民全体に求められる英語力→
中学・高校での達成目標を設定。
 - 中学校卒業段階: 挨拶や応対等の平易な会話(同程度の読む・書く・聞く)ができる(卒業者の平均が英検3級程度。)
 - 高等学校卒業段階: 日常の話題に関する通常の会話(同程度の読む・書く・聞く)ができる(高校卒業者の平均が英検準2級～2級程度。)
- 国際社会に活躍する人材等に求められる英語力→
各大学が、仕事で英語が使える人材を育成する観点から、
達成目標を設定。

英語学習の目標(高等学校・中学校)

文部科学省,「高等学校学習指導要領(平成21年3月)」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf

第13節 英語

第1款 目標

英語を通じて, 言語や文化に対する理解を深め, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り, 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

文部科学省,「中学校学習指導要領(平成20年3月・平成22年11月一部改正)」,

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/_icsFiles/afieldfile/2010/12/16/121504.pdf

第9節 外国語

第1 目標

外国語を通じて, 言語や文化に対する理解を深め, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り, 聞くこと, 話すこと, 読むこと, 書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

教養教育とは何か？

- **日本の教養教育：**

- 旧制高校(デカンショ)：ソ、ソ、ソックラテスカ、プラトンか
- 新制大学(一般教育科目)：人文科学・社会科学・自然科学
 - 国語・日本語・外国語は教養教育なのか：教養か実用か
 - 数学は教養教育なのか・情報は教養教育なのか
- 大綱化による一般教育の崩壊→専門教育重視の失敗→教育の質的保証→グローバル人材の育成

- **欧米の教養教育：自由七科(septivium)***

- 自由三科(trivium)：文法と論理と修辞
- 自由四科(quadrivium)：算術・幾何・音楽・宇宙
- English 101：学術的論文の書き方

*中山茂,「歴史としての学問」, 中央公論社, 1974年10月.

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」① コミュニケーションとは何か

- 現代にふさわしい「**市民的教養**」を考える上で、**コミュニケーション能力**は重要な要素である。
- 他者との**協働の能力**を向上させることこそがコミュニケーション教育の目的だからである。
- **公共的課題**の発見とその解決においては、自らの価値観や視点とは**異なる他者と出会い**、他者の価値観や視点を理解し、**協働する能力**が求められる。
- 自らの意見を**論理的に構成し**、**交渉**を通じて**合意**を生み出す能力も育成されねばならない。
- 国内、国外を通して、異なる価値観や視点を持つ他者と協働する機会が増大することが予想され、そこでのコミュニケーション能力の育成は、**教養教育の重要な課題**である。

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」③ 国際共通語としての英語教育

- グローバル化に伴い、**英語は**、イギリス人やアメリカ人の母国語というあり方を越えて、世界で最も広い範囲に流布する**国際共通語となっている**。このような国際共通語としての英語は、現在のアメリカ合衆国の政治力、経済力、軍事力の優位を背景にして生まれたものである。特にビジネスや情報のように物事の構造よりも流通・交流が問題になる分野、科学研究とりわけ自然科学のように標準化された手法と道具—度量衡の標準化はその象徴である—に基づく研究活動を通じて世界規模の科学者共同体が成立している分野では、**共通語使用の利便性は高く、その習熟は不可避である**。
- このような観点からすれば、**教育・学習の対象になるのは、英米の言語としての英語ではなく、媒介言語としての英語である**。
- こうした国際共通語としての英語の教育は、従来の外国語教育とは別のカテゴリーに属するものと解するべきである。グローバルな局面で、**文化と言語を異にする他者と協同し交流する能力を育成するために、アカデミック・リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションを核とする「英語によるリテラシー教育」**を構想する必要がある。その際、異文化との接触において自らのあり方と立場を説明し理解してもらうことの重要性を思えば、日本事情・日本文化は学習内容の重要な要素となるはずである。

経済産業省「社会人基礎力」

www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/pr1.ppt

1. 前に踏み出す力(アクション):
一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力
 1. 主体性:物事に進んで取り組む力
 2. 働きかけ力:他人に働きかけ巻き込む力
 3. 実行力:目的を設定し確実に行動する力
2. 考え抜く力(シンキング):
疑問を持ち、考え抜く力
 1. 課題発見力:現状を分析し目的や課題を明らかにする力
 2. 計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
 3. 創造力:新しい価値を生み出す力
3. チームで働く力(チームワーク):
多様な人々とともに、目標に向けて協力する力
 1. 発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力
 2. 傾聴力:相手の意見を丁寧に聴く力
 3. 柔軟性:意見の違いや立場の違いを理解する力
 4. 状況把握力:握力自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
 5. 規律性:社会のルールや人との約束を守る力
 6. ストレスコントロール力:ストレスの発生源に対応する力

グローバル人材育成推進事業(文部科学省)

- **若い世代の「内向き志向」**を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るため、大学教育のグローバル化のための体制整備を推進する。
- **新着情報**
 - 平成24年9月24日：平成24年度「グローバル人材育成推進事業」の採択事業の決定について(※報道発表へリンク)
 - 平成24年6月28日：平成24年度「グローバル人材育成推進事業」公募申請状況について
 - 平成24年4月23日：平成24年度グローバル人材育成推進事業の公募について(通知)
 - 平成24年4月13日：平成24年度「グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業」公募説明会の開催について
 - 平成24年4月9日：グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業合同プログラム委員会(第1回)の開催について
 - 平成24年3月12日：グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業準備会合の開催について

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1319596.htm

グローバル人材育成推進事業（日本学術振興会）

- ・ グローバル人材育成推進事業は、**若い世代の「内向き志向」**を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる「人財」の育成を図るため、大学教育のグローバル化を推進する取組を行う事業に対して、重点的に財政支援することを目的としています。
- ・ 本会では、文部科学省と共同でグローバル人材育成推進事業プログラム委員会を設け、この事業に関する審査・評価を実施します。

<http://www.jsps.go.jp/j-gjinzai/index.html>

グローバル人材育成委員会(経済産業省)

- 近年、国内市場の絶対的規模の縮小により、我が国の企業はその事業活動をボリューム・ゾーンの新興国市場を含めた海外市場での発展を求める必要性が高まるなど、経済のグローバル化は着実に進展しています。こうした中、真にグローバルに通用する人材(グローバル人材)が必要とされています。
- しかしながら、日本人の英語力は世界的に見ても低水準であることに加え、最近では20代の出国率が低下するなど、若者のグローバル意識の変容も見られます。これまでも各大学・企業等において「グローバル人材」の育成に向けた様々な取り組みが行われていますが、社会で求められる「グローバル人材」の人材像が必ずしも明確になっておらず、そうした人材が十分に育っているとは言い難いのが現状です。
- そこで、我が国の産業競争力強化のため、社会のニーズに合った「グローバル人材」を産学が連携して育成できるように、「産学人材育成パートナーシップ」全体会議の下に「グローバル人材育成委員会」を設置し、必要とされる人材像の検討を行いました。
- 具体的な検討項目
 - － 企業でグローバルな活動をするにあたり、どのような局面においてどのような能力が必要とされているのか。語学だけではなく、優れた人間性や教養、国内外の政治的・文化的側面を理解する能力などが求められるのではないかと。そうした能力を持つ人材を育成するため、企業においてどのように育成・評価が行われているのか。
 - － 大学教育が担う人材育成機能の多様性や、企業における「グローバル人材」の育成の現状等を総合的に勘案しつつ、大学において身につけておくことが望ましい資質に関し、産学の共通認識を醸成できないか。また、そのような資質を育成するためにはどのような教育が効果的か。さらに、そのような人材を企業が採用するよう促すためにはどのような方策があるのか。

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/san_gaku_ps/global_jinzai.htm

グローバル人材育成推進会議(内閣官房 国家戦略室)

グローバル人材育成推進会議の開催について

平成23年5月19日

新成長戦略実現会議決定

1. 「新成長戦略実現会議の開催について」(平成22年9月7日閣議決定)に基づき、我が国の成長を支えるグローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築を目指し、とりわけ日本人の海外留学の拡大を産学の協力を得て推進するため、「グローバル人材育成推進会議」(以下、「会議」という。)を開催する。
2. 会議の構成員は、次のとおりとする。
議長 内閣官房長官
構成員 外務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び国家戦略担当大臣
3. 議長は、必要があると認めるときは、関係大臣その他関係者の出席を求めることができる。
4. 会議の庶務は、文部科学省の協力を得て、内閣官房において処理する。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/konkyo.pdf>

International Baccalaureate: 国際バカロレア

- **DP: Diploma Program**
 - **EE: Extended Essay**
 - **TOK: Theory of Knowledge**
 - **CAS: Creativity, Action, and Service**
- **MYP: Middle Years Program**
- **PYP: Primary Years Program**

国際バカロレア・ディプロマプログラムTheory of Knowledge(TOK)について

国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける「TOK」に関する調査研究協力者会議

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2012/09/06/1325261_2.pdf

国際バカロレア

- **国際バカロレア機構（1968年に設立）**
 - インターナショナルスクールの卒業生を対象
 - 国際的に認められる大学入学資格を与える
- **IBの対象（3歳～19歳対象）**
 - DP: Diploma Program（16歳～19歳対象）
 - MYP: Middle Years Program（11歳～16歳対象）
 - PYP: Primary Years Program（3歳～12歳対象）
- **2012年7月の時点のIB認定校数**
 - 世界141カ国において約3,400校
 - 日本のIB・DP認定校は16校
 - うち学校教育法第1条に規定されている学校は5校

Theory of Knowledge 知識の理論・知識論

- **ways of knowing:** sense perception, reason, emotion, and language
- **areas of knowledge:** mathematics, natural sciences, human sciences, history, the arts and ethics
- **factors that transcend individual ways of knowing and areas of knowledge:**
- **nature of knowing:** what are the differences between information, data, belief, faith, opinion, knowledge and wisdom?
- **knowledge communities:** What is taken for granted in a community? How can we decide which beliefs we ought to check further?
- **knowers' sources and applications of knowledge:**
- **justifications of knowledge claims:**

http://en.wikipedia.org/wiki/Theory_of_knowledge_%28IB_course%29

Theory of Knowledge 知識の理論・知識論

Contents (Pearson IB Theory of Knowledge)

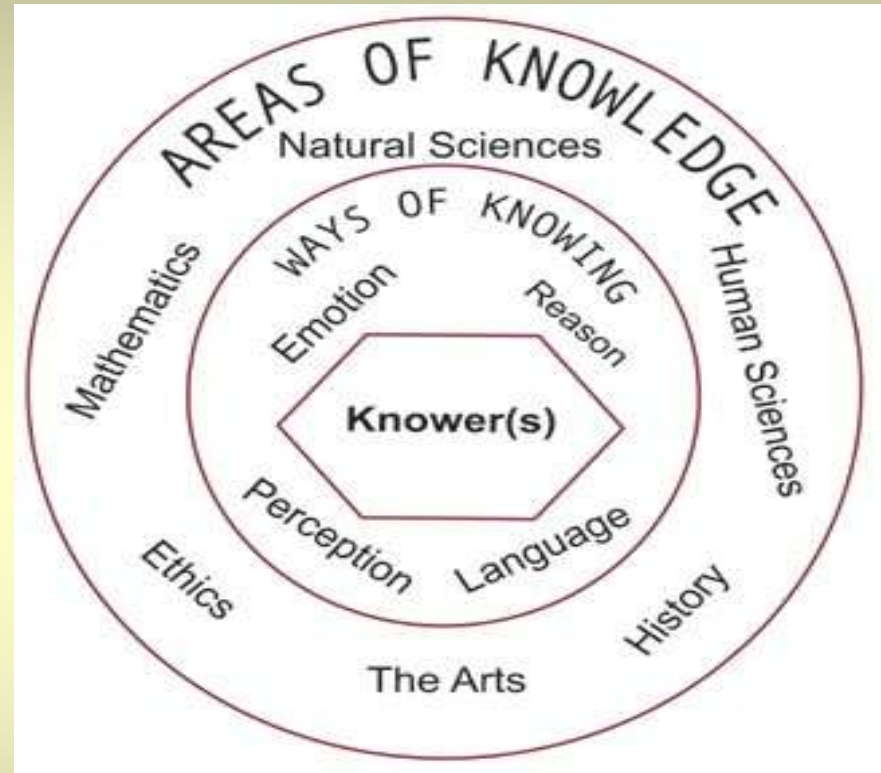
- **Chapter 1: An Introduction to Theory of Knowledge**
- **Chapter 2: What is knowledge?**
- **Chapter 3: Ways of knowing**
- **Chapter 4: Sense perception**
- **Chapter 5: Emotion**
- **Chapter 6: Language**
- **Chapter 7: Reason**
- **Chapter 8 Areas of Knowledge: an overview**
 - **Chapter 9: Mathematical knowledge**
 - **Chapter 10: Natural Science**
 - **Chapter 11: Human sciences**
 - **Chapter 12: History**
 - **Chapter 13: Ethics**
 - **Chapter 14: Art**
- **Chapter 15: Assessment**

Theory of Knowledge 知識の理論・知識論

- The Theory of Knowledge course puts the learners at the centre and engages them in critical thinking not only about what they are learning but also how they come to know it. This graphical representation is helpful in understanding how the course works. Read on for more explanation and examples.

Story and pictures by TERRY FREDRICKSON

<http://www.bangkokpost.com/education/site2003/cvfb1103.htm>



現代の教養教育とは何であるべきか？

- 欧米の教養教育：自由七科 (septivium)
 - 自由三科 (trivium)：文法と論理と修辞
 - 自由四科 (quadrivium)：算術・幾何・音楽・宇宙
 - English 101：学術的論文の書き方
- 現代の教養教育：言語と情報
 - 自由三科 (trivium)：文法と論理と修辞
 - 言語=世界観をどのように構成・表現・伝達するか
 - 自由四科 (quadrivium)：算術・幾何・音楽・宇宙
 - 情報=世界をどのように理解し・捉え・表現するか
 - 言語情報とのかかわり
 - CSLI
 - PACLIC

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」① コミュニケーションとは何か

- 現代にふさわしい「**市民的教養**」を考える上で、**コミュニケーション能力**は重要な要素である。
- 他者との**協働の能力**を向上させることこそがコミュニケーション教育の目的だからである。
- **公共的課題**の発見とその解決においては、自らの価値観や視点とは**異なる他者と出会い**、他者の価値観や視点を理解し、**協働する能力**が求められる。
- 自らの意見を**論理的に構成**し、**交渉**を通じて**合意**を生み出す能力も育成されねばならない。
- 国内、国外を通して、異なる価値観や視点を持つ他者と協働する機会が増大することが予想され、そこでのコミュニケーション能力の育成は、**教養教育の重要な課題**である。